



来月から北京市の救急車料金が片道分に

新京報 epaper.bjnews.com.cn

2016-04-14

来源：新京報

来月から北京市の救急車使用料に統一基準が実施され、院前危急重症者の救助費は医療保険に組み込まれ、料金メータのない救急車は料金徴収不可に

新京報電 5月1日より、北京における救急車の使用料金の計算方式が、『往復で課金』から『患者の乗車キロ数による課金』に替わり、且つ、3キロ以内は50元、3キロ以上は7元/1キロという基準に統一される。昨日、市発展改革委員会等3部門が院前救急関連項目の価格を発表し、新たな価格政策が全市範囲内で統一的に実施されることとなり、120や999（宮本注：どちらも救急車を呼び出す番号です）もまた同一基準で実施される。

救急車使用料から『空車走行費』が外れる

北京市の現行価格政策によると、院前救急類の項目には、救急車の使用料と往診費が含まれており、救護車両のタイプによって、多くの価格が記載されていた。もし、高級車両を使うと5元/km、往診費40元となるが、国産の救急車なら2元/km、往診費10元となる。救急車はいずれも走行距離に応じ往復分の料金が算出されていた。

近年、社会各方面から救急車の車種別価格や往復キロ数に応じた使用料などの問題に対する比較が集中するようになった。昨日、市発展改革委員会等3つの部門が現行の院前救急価格項目に対して規範を定めることになった。

今回の院前救急価格政策では、現行の『往診費』項目を『院前危急重症応急処置』の項目とし、価格水準も40元/回に統一されている。

この他、現行の『救急車使用費』に見られる多重価格の統一を進められ、『往復全行程の車両価格』を改め『実際の搭乗距離に基づく料金』とし、設定された初乗り運賃を超えた距離についてはキロ数ごとの課金というタクシーに似た価格方式になった。

具体的には、救急車使用料金は、3キロ以内なら50元、3キロ以上の部分が7元/キロとなる。この意味するところは、もともと市民が口にしてきた『空車走行費』と『復路分の費用』が取り消しになったということだ。

この二項の価格は、政府指導価格とされ、各医療機構がこの価格を超えてはならないということだ。

120と999は同一基準で実施することに

市発展改革委員会は、市民が消費についてよく理解できるようにするために、救急車両への走行メータの設置を必須とし、走行距離は、メータ表示距離に基づき、メータの設置されていない救急車両では、その使用料徴収はできなくなる。メータの設置や使用などの関連事項については、市衛生計生委員会が管理規範を統一することになる。

北京市医療機構価格の公表に関する規定に基づき、医療機構が提供する医療救急サービス及びその他のサービスは、全て救急車両内の見える位置に掲出し、オフィシャルサイトやニュースメディア等マルチチャネルで社会に向けてこれを公開せねばならない。医療機構は、患者及びその家族から費用を徴収する場合、患者や家族が照合しやすいように費用リストを提示し、社会の管理監督を受けていることを自覚せねばならない。

5月1日より、新たな価格政策が全市で統一実施されるが、市街地であれ近郊地区であれ、120であれ999であれ、全てが同じ基準で実施される。市発展改革委員会は、万一市民が価格問題を見つけた場合には、12358のホットラインで通報することも可能であるとしている。市民は医療サービスの問題に遭遇した場合には12320のホットラインにて相談或いは通報することができる。

【決算】

救急車が西城区広安門外栄豊2008小区から宣武医院まで搬送する際の走行距離は約3キロだが、新たな救急車価格基準に基づく3キロ内の救急車使用料50元となる。

もし医療スタッフが危急重症患者に現場での診察や防護、救命及び搬送途上での看護をする医療技術サービスを提供した場合、院前危急重症医療費が **40 元** となり、これらの二項目を合わせると合計で **90 元** となる。

現場で実施したその他の検査や治療検査試験などの項目及び薬剤や血液費用は、関連規定に基づき別途加算徴収されることになる。

■追跡取材

120 の救急車には全てメータが設置されている

昨日、記者が北京救急中心（このセンターの電話番号が **120** なので **120** と書かれます）から得た情報では、**120** の全救急車には、既に市発展改革委員会や市衛生計生等の部門の要求に照らし、順次メータ設置を含めた前期準備作業が既になされ、現時点では全ての救急車にメータが設置されているとのことだ。

現在、北京救急センターは、『就近、就急、就能力（直近で、急を要し、能力があること）』の原則に基づき車両を派遣している。『就近』とは一般に患者の所在地から病院までの距離が直径 **5** キロから **7** キロ前後の範囲を指す。

北京救急センター関連責任者は、これに先立ち、救急車両にメータを設置する必要性に関心を持っていた。インタビュー時、杭州や無錫等での成功事例を借りて救急車にメータ設置をと提案していた。これにより、一方で救急医が経理マンとして救急治療費を徴収する際に起こる徴収漏れの問題を避けられ、他方では徴収費用がより透明化し、救助スタッフと患者間の問題発生を避けることができるようになる。

■リンク

院前救急と救急車の使用料はどのように徴収するの？

院前危急重症救助費用

40 元/回

現場での診察や防護、救命及び搬送途上での看護費用が含まれる。患者には一回分の救助費のみ請求。

現場で実施したその他の検査や治療、検査試験等の項目及び薬剤や血液の費用は関連規定に基づき別途徴収される。

救急車使用料

実際に客（原文は『客』。事業と考えれば当たっているが違和感あります）を運んだ距離、つまり、患者のいる場所から目的地に搬送するまでの実際の走行距離により計算される。

3 キロ以内は **50 元**、**3** キロ以上の場合、**1** キロごとに **7 元** とし、**1** キロに満たない部分は **1** キロとして切り上げ計算する。

1. 患者が多い場合の料金はどうなる？

同時に **2** 名以上の患者を搬送する場合、使用料は搬送される患者の人数で割り算し均等負担する。

2. 救急車が到着してもそれを使用しない場合の費用負担は？

患者及びその家族は自己都合で到着した救急車を使用しない場合でも救急車使用料の **50 元**（だけ）は徴収される。

3. いくつもの病院に転送する場合には車代を重複徴収するの？

救急車が患者を一つの病院に搬送した後で、治療が不能ということで第二の病院に搬送する場合、患者が車を降りることなくその他の病院に転送された場合には、同一車両の最終地までの実際のキロ数に基づき計算するが、初期費用である **50 元** のみ支払えばよい。

■焦点

40 元の救助費には担架を担ぐ費用が含まれていない

昨年 **11** 月、北京市第十四回常務委員会第二十三回会議で、北京市院前医療救急服務条例第二稿の改稿をする第三回審議が開かれた。草案の第二稿では、院前医療救急機構が社会の力を利用して必要性のある患者に担架を搬送する有償サービスを奨励していた。市発展改革委員会は、担架担ぎ費用の問題は、立法状況に基づき確定されるべきだとした。救急立法が未提出であり、国家の関連部門が提出した『全国医療服務價格項目規範（**2012** 年版）』中に規定されている項目の『院前危急重症救助費』中では、担架を担ぐという内容が含まれておらず、つまり、担架を担ぐ費用は **40 元** の救助費には含まれていないことになる。

救助費は工傷医療保険（労災保険）に組み入れられ還付されることに

今回、現行の『往診費用』項目が『院前危急重症救助』項目と調整され、**40 元/回**の価格レベルは不変のまま保持され、個人自費だったものを基本医療保険や労災保険に組み入れられ還付金が受けられることに。

当該項目は、医療保険や労災保険のタイプにおいてはすべて甲（A）類に属している。これらの保険では、いずれも還付金が受けられるようになった。

救急車使用料は、医療保険では丙（C）類に属し、これは自費項目となる。労災保険では甲（A）類に属し、保険金の還付請求ができるが、救急治療が発生した労災発生当日に救急車を利用した場合に限るものとする。

■現状（このニュースが報道された2016年4月14日時点のことです）

車代は往復全行程制で、車のタイプが違えば費用も違う

近年来、救急車両は『車両の往復全行程』制の費用で計算料金徴収するモデルが争議を引き起こした。2013年、メディアが、ある患者が天壇病院から何キロか外にある東城区の第一人民医院に搬送されたら120元とられた；他方で距離の似た北海公園から北大病院への搬送時の車代は56元だったと報じた。

救急車が『往復全行程』で費用計算というモデルの下では、課金方式は『タクシー利用』と同様ではないが、患者の家から病院までの実際距離で計算され；且つ、救急ステーションから出発し、患者の所在地に到着し、再び病院に搬送し、最後に元の出発地点に戻るまでの全行程を走行するために『往復全行程』で計算されていた。民間でもまた『一来一往（来て戻る）』の費用を『空車走行費』としている。

同時に、救急車のタイプが色々あり具体的な費用は、全部が全部同じではないのだ。北京救急センターのインターネットサイト上に公開されている具体的な車代の基準によれば、ベンツやシボレーなどの高級車は5元/kmであり；心肺蘇生救急車（ちょっと想像しにくいですね）が3.5元/km；トヨタなどの輸入救急車なら2.5元/km；福田（Foton）などの国産車ならば2元/kmとなっていた。

これまで、北京市には独立した院前救急医療サービス価格体系がなかった。院前救急サービス費用は、1999年に発表された『北京市統一医療サービス課金標準』に基づきこれまで徴収されていた。

この『課金標準』においては、院前救急の往診費と救急車代のみしか規定されていなかった。例えば、心肺蘇生救急車の往診費は、40元となっているが、応急処置費や治療費などのその他の救急サービス項目については、業界関係者によると医療機関中関係のある医療サービス標準に基づき徴収しているとのことだ。例えば静脈点滴については、院内救急の費用をおよその参考値としているだけで、この項目に対する課金標準の規定はそもそも存在していないのだ。

記事： 新京報記者： 鄧琦、温蓊

http://epaper.bjnews.com.cn/html/2016-04/14/content_630840.htm?div=-1

::::::::::: 以下は中国語原文 :::::::::::::::::::::

下月起北京救护车将按单程收费

新京报 epaper.bjnews.com.cn

2016-04-14

来源： 新京报

下月起北京救护车使用费实行统一标准，院前危急重症抢救费纳入医保；救护车无计价器不得收费

新京报讯 5月1日起，北京救护车使用费计价方式将从“往返全程计价”改为“按载客里程计价”，并统一标准为：3公里以内（含）50元，3公里以上每公里7元。昨日，市发改委等3部门发布院前急救有关项目价格的通知，新的价格政策将在全市范围内统一实施，120和999也都将执行同一标准。

救护车使用费取消“空驶费”

按照北京市现行价格政策，院前急救类项目主要包含救护车使用费和随车出诊费，根据救护车类型不同分为多个价格档次。如高档救护车每公里5元，随车出诊费40元，国产救护车每公里2元，随车出诊费10元。救护车均按往返全程计算公里。

近年，社会各方面对于救护车区分车型定价、按往返全程计价收费等问题反映比较集中。昨日，市发改委等3部门发布通知对现行院前急救价格项目进行了规范。

此次院前急救价格政策将现行“随车出诊费”项目调整为“院前危急重症抢救”项目，价格水平保持每次40元不变。

此外，将现行“救护车使用费”多档价格进行统一，计价方式由“车辆往返全程计价”改为“按实际载客里程计价”，计价方式类似出租车，即设一个起步价，超过起步价公里数之后按每公里收费。

具体来看，救护车使用费3公里以内（含）50元，3公里以上每公里7元。这意味着，原来一些老百姓口中的“空驶费”和“返程费”取消了。

这两项价格为政府指导价，各医疗机构不得突破此价格执行，下浮不限。

120和999执行同一标准

市发改委表示，为保证百姓明明白白消费，还要求救护车必须安装计价器，里程以计价器显示里程为准，无计价器的救护车不得收取救护车使用费。计价器安装使用等相关事宜，由市卫计委统一管理规范。

按照北京市医疗机构价格公示有关规定，医疗机构提供的医疗急救服务和其他服务，均应在救护车显著位置做好价格公示，并通过官方网站、新闻媒体等多种渠道向社会公布。医疗机构在向患者及家属收取费用时，应主动提供费用清单，便于患者及家属了解核对，自觉接受社会监督。

5月1日起，新的价格政策将在全市范围内统一实施，无论城区还是郊区、120还是999，都执行同一标准。市发改委表示，市民如果发现价格问题，可以拨打12358热线举报。市民遇到医疗服务问题可拨打12320热线进行咨询或举报。

【算账】

救护车将患者从西城区广安门外荣丰2008小区送至宣武医院，路程约3公里，根据新的救护车价格标准，3公里以内（含）收取救护车使用费50元。

若医务人员对危重急症患者提供现场诊察、防护、救治及途中监护的医疗技术劳务性服务，则收取院前危急重症抢救费40元。两项费用共90元。

现场实施的其他检查、治疗、检验等项目及药品、血液费用按相关规定另收。

■ 追访

120急救车已全装计价器

记者昨日从北京急救中心获悉，120所有急救车都已按照市发改委、市卫计委等部门的要求，做好了前期准备工作，包括分期分批安装了计价器。目前，所有急救车上的计价器都已安装完毕。

目前北京急救中心派车遵循“就近、就急、就能力”的原则。“就近”一般指病人所在地至送达医院距离直径为5公里及行程为7公里左右。

此前，北京急救中心有关负责人已关注到了急救车配备计价器的必要性。其接受采访时表示，建议借鉴杭州、无锡等一些城市成功的案例，在急救车上安装计价器。此举一方面可以避免由急救医生作为财务人员收取急救费用时出现的漏费等问题，另一方面也使得收费更加透明，避免急救人员和患者之间产生矛盾。

■ 链接

院前急救和救护车使用费怎么收？

院前危急重症抢救费用

40元/次

包含现场诊察、防护、途中护理和人员监护费用。每患者只能计收一次抢救费。

现场实施的其他检查、治疗、检验等项目及药品、血液费用按相关规定另收。

救护车使用费

按实际载客里程计价，即以接到患者至目的地的实际行驶公里数为准。

3公里以内（含）50元，3公里以上每公里7元，不足1公里按1公里计算。

1、有多名患者如何付费？

同时接送2名及以上患者，按患者人数平均分担救护车使用费。

2、救护车到达后不使用是否要付费？

患者及其家属因自身原因拒绝使用已到达救护现场的救护车，收取救护车使用费50元。

3、转送多家医院是否重复收车费？

如遇到救护车将患者送到一家医院，但没法救治还得去第二家医院的情况，患者未下车就转其他医院，按照同一辆车的最终实际里程计算，50元的起步价只能收取一次。

■ 焦点

40元抢救费不含担架搬抬费用

去年11月，市十四届人大常委会第二十三次会议就北京市院前医疗急救服务条例草案二改稿进行第三次审议。草案二改稿规定，鼓励院前医疗急救机构利用社会力量，为有需要的患者提供有偿的担架搬抬服务。

市发改委表示，搬抬服务收费问题需要根据立法情况确定。因急救立法尚未出台，且按照国家有关部门出台的《全国医疗服务价格项目规范（2012年版）》中规定的项目内涵，“院前危急重症抢救费”中不包含担架搬抬内容，因此担架搬抬服务并未纳入40元抢救费中。

抢救费纳入医保工伤保险报销

此次将现行“随车出诊费”项目调整为“院前危急重症抢救”项目，价格水平保持每次40元不变，并由个人自费改为纳入基本医疗保险、工伤保险报销范围。该项目在医保、工伤保险的类别中，都属于甲类。在两种保险中都可以报销。

救护车使用费则在医保类别中属于丙类，是自费项目。但在工伤保险类别中属于甲类，可以报销但仅限于工伤发生当日因急救抢救发生的救护车使用费。

■ 现状

车费收往返全程 车型不一费用不同

近年来，急救车辆按照“车辆往返全程”计价的收费模式时而引发争议。2013年，媒体报道称，有患者自天坛医院转院至几公里外的东城区第一人民医院，收费120元；而距离类似的北海公园至北大医院，车费是56元。

在急救车“往返全程”计费的模式之下，计价方式并非像“打车”一样，从患者家至医院实际里程计算；而是自急救站点出发，到病人所在地，再到医院，最后返回原出发站点这一全过程所走的路程，均属于“往返全程”计价的范围。民间也将急救车“一来一往”的费用称为“空驶费”。

同时，急救车车型不同，具体费用也不尽相同。按照北京急救中心网站上公布的现行具体出车费标准，像奔驰、雪佛兰等高档救护车，5元/公里；心脏复苏抢救车，3.5元/公里；丰田等进口救护车，2.5元/公里；福田等国产救护车，2元/公里。

此前，北京并没有一个独立的院前医疗急救服务价格体系。院前急救服务收费一直以来参照执行的是1999年前颁布的《北京市统一医疗服务收费标准》。

在这一收费标准中，只规定了院前急救的出诊费和急救车费。比如，心肺复苏抢救车随车出诊费执行的是40元标准。但对于其他急救服务项目如抢救费、治疗费等，业内人士称，只能参照医疗机构中有关的医疗服务标准进行收费。比如静脉输液，只能大致参照院内急救的收费，并没有针对该项目规定收费标准。

本版采写/新京报记者 邓琦 温霁。